

だいいく通信 第三十七号 「春の号」

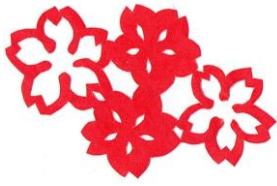
いあつちつ

「二月逃げる、三月去る」ということばかり、あつという間に三月も末となりました。今年はこの国が大きく動く年になると思われます。世の中があわただしさを増しても、何より大切なのは日々の生活を大切にしつつ、冷静にものごとを見定めていこうとする姿勢だと考えます。神社にお参りいただく時間が、短い間であっても少しでも心の落ち着きを取り戻していただくひとときとなればと思います。

社報「だいいく通信」第三十七号をお届けします。

今回の内容は、催し物についてのご案内、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、オリジナル・キャラクターたちが活躍する連載まんがなどです。お楽しみいただければ幸いです。

大國神社 宮司 大島資生



大國神社の今

○第八回だいいく落語会、満席となりました。

四月二十七日（土）に予定しております「だいいく落語会」は、おかげさまで満席となりました。たくさんのお申し込みをありがとうございました。

○第五回だいいくクラシックスの日程が決まりました。

秋恒例の催しとなりました「だいいくクラシックス」、今年は五回目を迎えます。昨年に引き続き、東京都交響楽団第二ヴァイオリン副首席奏者の小林久美さんと、同じく東京都交響楽団ヴィオラ奏者小林明子さんのお二人によるデュオ・リサイタルです。

第五回だいいくクラシックス

「小林久美・小林明子 デュオ・リサイタル」

日時 九月二十九日（日）午後三時より

場所 大國神社・拝殿

どうぞご期待ください。

ご参加申し込みは七月二十六日の甲子祭から受け付ける予定です。

お宮あれこれ「年度」のこと

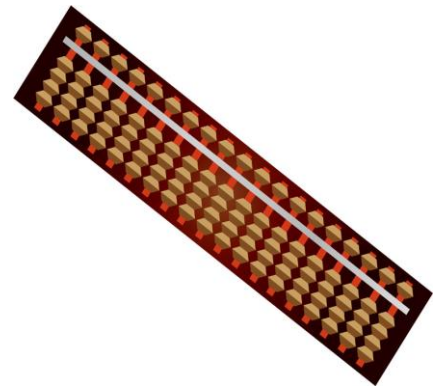


日本の会計や学校の年度は四月に始まります。なぜ一月からではないのでしょうか。今回はこのことについてお話ししたいと思います。

現在、全世界で広く用いられている暦法は、太陽の運行に基づいた太陽暦です。代表的なものがグレゴリオ暦で、一月一日から十二月三十一日までを一年としています。日本でも日常的な生活にはこの暦を用いています。しかし、先に述べたように企業等の会計や学校の一年は四月に始まります。日本では奈良時代の律令制以来、一月から十二月までを一年として扱ってきました。四月に始まる一年を単位とする考え方が始まったのは明治維新後です。

四月を年度の始まりとするようになった理由としては二つの説があるそうです。

一つは明治維新当時に先進国であったイギリスにならったという説です。イギリスは一七五二年にグレゴリオ暦を採用しましたが、それ以前はユリウス暦を用いていました。ユリウス暦も太陽暦の一つですが、三月二十五日を春分とし、この日から一年が始まるとしており、日本



もこれを取り入れたという説です。ユリウス暦では年度末の支払いは新年度の最初の週までに済ませればよい、つまり三月いっぱいが支払いの期限とされていました。そのため、日本で新たに年度を定めるに当たって三月末日を年度の終りとしたというのです。

もう一つの説は次のような会計年度をめぐる経緯によるといいます。明治維新当初は、江戸時代の習慣を引き継いで旧暦を用いていました。そして明治二（一八六九）年からは新米の収穫に合わせて旧暦十月から旧暦九月を一年度とするようになりました。ところが、明治六（一八七三）年に改暦が行われた際には新暦の一月から十二月を一年度とすることになりましたが、二年後の明治八（一八七五）年の地租改正にあたって七月～六月に変わります。このように当時は状況が非常に流動的だったことがうかがわれます。

さて、さらに二年後の明治十（一八七七）年の西南戦争の際、戦争費用をまかなうために政府が紙幣を増発します。このことが戦後の明治十二（一八七九）年から十三（一八八〇）年にかけて激しいインフレーションをひきおこします。明治十四（一八八一）年の政変で失脚した大隈重信に代わって大蔵卿となった松方正義が事態を收拾するために紙幣の回収を推し進めた結果、今度は激しいデフレーションが生じます。それによる財政赤字を補填するため、政府は明治一八（一八八五）年度の酒造税を前倒しして前年度に繰り入れてしまいました。そして

当時酒造税の第一納期は四月だったのでそれに合わせざるを得なくなりました。こうして迷走に終止符が打たれ、翌明治一九（一八八六）年の会計年度から四月始まりになりました。長くなりましたが、これが二つ目の説です。

二つの説を比べてみますと、どうも二つ目の説のほうが説得力がありそうです。

一方、学年暦は明治五（一八七二）年に学制公布、翌年の改暦で新暦が採用されます。当初小学校入学の時期は四月のところも九月のところもあって、九月のほうが多かったそうです。会計年度が四月始まりに落ち着いてからはそれに合わせて四月入学とすることが推奨されました。そして、明治三十三（一九〇〇）年になって制度化されます。

よく、春は出会いと別れの季節と言われますが、年度の四月始まりの背景には、古い制度から新しい制度への、すなわち古い時代から新しい時代への大きな転換があったことがわかります。新しい年度、気持ちを新たにして過ごしていきたいものです。

（参考）ウェブサイト「暦生活」より「こよみの学校 第五十三回」(<https://www.543life.com/campus53.html>)



祭礼・祈祷などの案内

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次の電話番号もしくはメールにてお願いいたします。不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。

○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行っております。祈祷日時については、お電話にてご相談ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉

電話

○三―三九一八―七九三〇

携帯

○八〇―一九八七―八七一六

メール

daikokujinja@gmail.com



(連載まんが)

大吉うさぎ

～欲張りは禁物～



○次回甲子祭

平成三十一年五月二十七日(月) 午前五時～正午

○開運千人講祈祷祭 毎月一日 午前六時～正午まで

次号発行予定

「だいいく通信第三十七号」、いかがでしたか。次号「夏の号」は、七月二十六日の甲子祭に発行予定です。

「だいいく通信」第三十七号 平成三十一年三月二十八日発行
編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇-〇〇〇三 東京都豊島区駒込三二-二-十一

<http://www.daikokujinja.org>